

令和6年度

事業報告書

学校法人君津学園

令和6年度 事業報告書

I	法人の概要	
	1、設置する学校の内容	----- 2
	2、学校法人の沿革	----- 3
	3、役員等に関する事項	----- 4
	① 理事、監事に関する事項	
	② 評議員に関する事項	
	4、学校法人君津学園組織図	----- 6
II	事業の概要	
	1、教育活動に関する事項	-----7
	① 清和大学に関する事項	
	② 清和大学短期大学部に関する事項	
	③ 木更津総合高等学校に関する事項	
	④ 市原中央高等学校に関する事項	
	⑤ 清和大学附属幼稚園に関する事項	
	2、研究に関する事項	-----15
	① 清和大学に関する事項	
	② 清和大学短期大学部に関する事項	
	3、キャンパス等充実にに関する事項	-----18
III	財務の概要	
	1、財務の経年比較	-----19
	2、借入金の状況	-----22

I 学校法人の概要

フリガナ 学校法人名	所在地
学校法人 キミツガクエン 君津学園 (大臣認可年月日 昭和42年1月23日)	〒292-8511 千葉県木更津市東太田3丁目4番1号 TEL : 0438(30)5500

1、設置する学校の内容

(令和6年5月1日現在)

学校名 (所在地)	学部 学科等名	開設 年度	入学 定員	志 願 数	入 学 数	入学定員 充足率	収 容 員	現 員	収容定員 充足率
		年度	人	人	人		人	人	
清和大学 (千葉県木更津市東太田3丁目4番5号)	法学部 法律学科	H6	190	194	167	88.0%	760	696	92.0%
清和大学短期大学部 (千葉県木更津市東太田3丁目4番2号)	こども学科	S42	80	61	59	74.0%	160	116	73.0%
木更津総合高等学校 (千葉県木更津市東太田3丁目4番1号)	全日制課程 普通科	H15	720	2,313	760	106.0%	2,160	2,084	96.0%
市原中央高等学校 (千葉県市原市土宇1481)	全日制課程 普通科	S58	350	1,215	211	60.0%	1,050	650	62.0%
清和大学附属八重原幼稚園 (千葉県君津市南子安1377番地)		S43	-	-	-	-	340	202	59.0%
清和大学附属畑沢幼稚園 (千葉県木更津市畑沢3丁目9番1号)		S46	-	-	-	-	270	163	60.0%
清和大学附属金田幼稚園 (千葉県木更津市中島1250番地)		S52	-	-	-	-	165	135	82.0%

2、学校法人の沿革（概要）等

学 校 法 人 の 沿 革 （ 概 要 ）		
昭和21年	4月	木更津市に英語講習所開設
昭和24年	2月	各種学校君津学院設立
昭和26年	4月	木更津高等家政女学校設立
昭和35年	8月	学校法人君津学園設立認可
昭和38年	4月	木更津中央高等学校設立
昭和42年	4月	清和女子短期大学幼児教育科設立
昭和43年	4月	清和女子短期大学附属八重原幼稚園設立
昭和46年	4月	清和女子短期大学附属畑沢幼稚園設立
昭和48年	4月	木更津高等家政女学校を廃止し、清和女子短期大学附属高等学校設立
昭和51年	4月	清和女子短期大学幼児教育科を児童教育学科に変更
昭和52年	4月	清和女子短期大学附属金田幼稚園設立
昭和58年	4月	市原中央高等学校設立
平成2年	1月	君津学園家政専門学院廃止
平成5年	12月	清和大学法学部法律学科設置認可
平成6年	4月	清和大学法学部法律学科開学
平成15年	4月	木更津中央高等学校・清和女子短期大学附属高等学校廃止
平成15年	4月	木更津総合高等学校設置認可
平成15年	4月	清和女子短期大学を清和大学短期大学部に校名変更
平成15年	4月	清和女子短期大学附属幼稚園を清和大学附属幼稚園に園名変更
平成17年	4月	清和大学短期大学部児童教育学科を児童総合学科に名称変更
平成18年	4月	清和大学法学部法律学科に教職課程を設置
平成30年	4月	清和大学法学部法律学科昼夜開講制を廃止
平成30年	4月	清和大学短期大学部児童総合学科をこども学科に名称変更
令和2年	4月	清和大学附属金田幼稚園が施設型給付幼稚園に移行（園名変更なし）
令和3年	4月	清和大学附属金田幼稚園が認定こども園に移行（園名変更なし）
令和5年	4月	清和大学附属八重原幼稚園及び畑沢幼稚園が認定こども園に移行（園名変更なし）

3、役員等に関する事項

① 理事、監事に関する事項

(令和6年7月1日現在)

区別・職名		フリガナ氏名	性別	常勤・非常勤	現職	住所	就任年月日 (重任年月日)	選任区分
理事	理事長	マイタ リュウタロウ 真板 竜太郎	男	常勤	清和大学短期大学部学長 木更津総合高等学校校長	千葉県木更津市	平成11年9月27日 (R05.12.01)	第2号(短大学長)
理事	副理事長	マイタ ヨウスケ 真板 陽介	男	常勤	学校法人君津学園事務局長 清和大学附属幼稚園園長	千葉県木更津市	平成27年11月27日 (R05.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		オダ キョウイチ 織田 恭一	男	常勤	清和大学学長	千葉県木更津市	平成26年11月1日 ()	第1号(大学学長)
理事		ツネズミ リョウヘイ 常澄 良平	男	非常勤	NPO法人代表	千葉県市原市	平成30年2月23日 (R05.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		トリウミ タカミツ 鳥海 高充	男	非常勤	カギサグループ(株) 代表取締役	千葉県富津市	平成16年12月25日 (R05.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		ヨンドウ イクコ 近藤 郁子	女	非常勤	ピアノ教師	千葉県木更津市	平成20年3月1日 (R05.12.01)	第4号(理事会選任)
理事		アンザイ ヨウキチ 安西 要吉	男	非常勤	学校職員	千葉県木更津市	令和1年12月1日 (R05.12.01)	第4号(理事会選任)
監事		ミカミ カツヒコ 三上 勝彦	男	非常勤	無職	千葉県木更津市	令和2年6月1日 (R06.03.30)	
監事		カタヤマ フタル 片山 渉	男	非常勤	無職	千葉県木更津市	令和1年6月1日 (R05.06.01)	

定数		7人	
実数	常勤	3人	
	非常勤	4人	
	計	7人	

区分	定数	実数
1号	1人	1人
2号	1人	1人
3号	3人	3人
4号	2人	2人

定例	2回
臨時	7回
計	5回

② 評議員に関する事項

(令和6年7月1日現在)

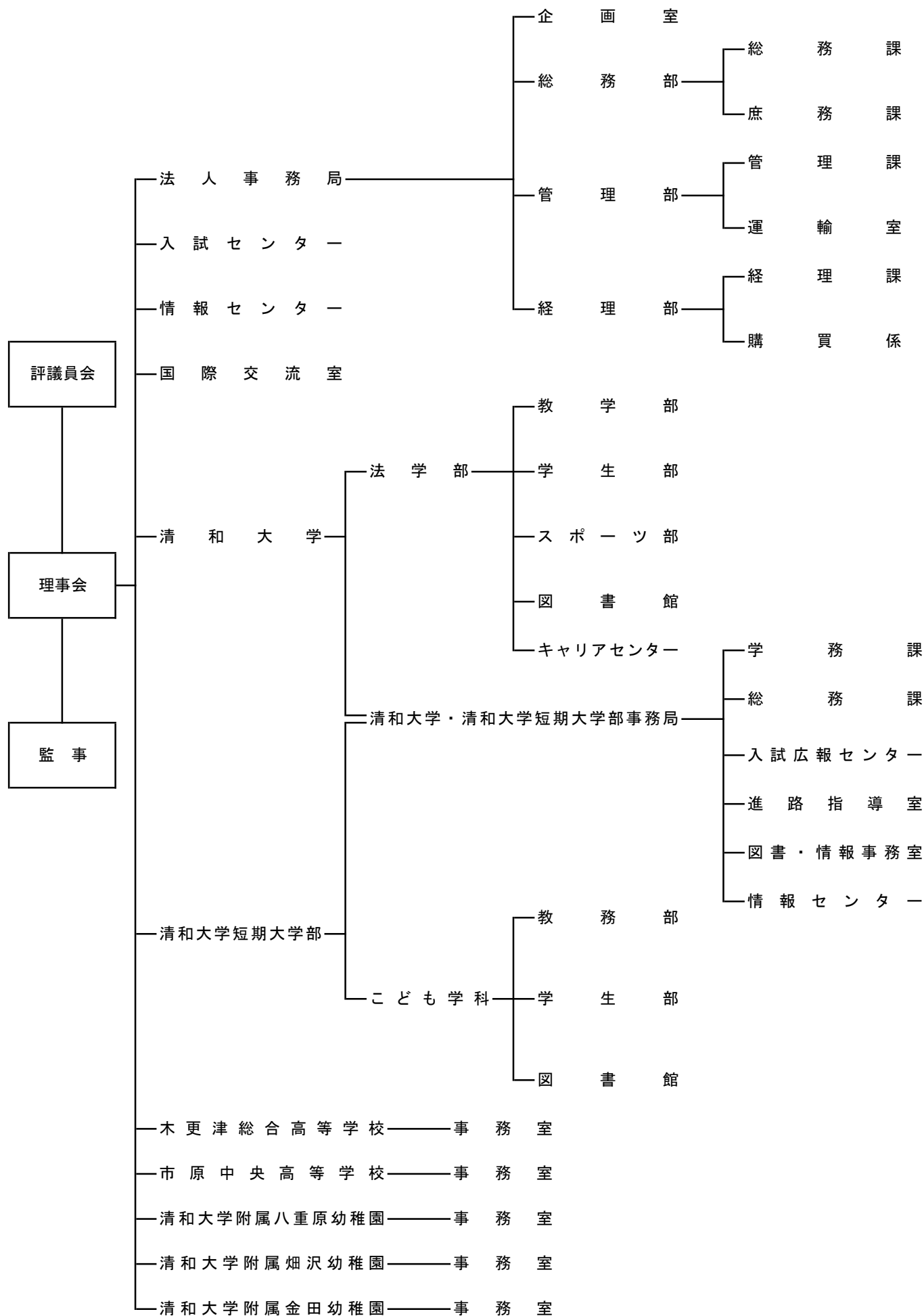
＜評議員の構成＞				＜選任条項別定数実数＞			＜評議員選任条項＞			
定数	15～20		人	区分	定数	実数	第16条第1項第1号			
実数	常勤	4	人	1号	1人	1人	第16条第1項第2号	清和大学の学長		
	非常勤	12	人	2・5号	1人	1人	第16条第1項第3号	清和大学短期大学の学長		
	計	16	人	3・4号	1人	1人	第16条第1項第4号	清和大学の法学部長		
				6号	1～2人	1人	第16条第1項第5号	清和大学の教学部長		
				7号	2～3人	2人	第16条第1項第6号	木更津総合高等学校の校長		
				8号	4～5人	4人	第16条第1項第7号	この法人の職員のうちから理事会において選任された者		
				9号	2～3人	2人	第16条第1項第8号	理事のうちから理事会において選任された者		
				10号	3～4人	4人	第16条第1項第9号	この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25歳以上の者のうちから理事会において選任された者		
							第16条第1項第10号	この法人の設置する学校の在学者の父兄若しくは保護者のうちから理事会において選任された者		
								この法人に係る学識経験者および功労者で前各号に規定する評議員の過半数以上をもって選任された者		

＜令和5年度中の評議員会開催状況＞		
	回数	回
定例	2	回
臨時	4	回
計	6	回

フリガナ氏名	性別	現職	住所	就任		選任区分等	
				就任年月日	重任年月日	項又は号	選任区分
マイタリユウタロウ 真板 竜太郎	男	清和大学短期大学部学長 木更津総合高等学校校長	千葉県木更津市	H26.4.1 H26.11.1		1項2号 1項5号	短大学長 木更津総合高等学校校長
マイタ ヨウスケ 真板 陽介	男	君津学園法人事務局長 清和大学附属幼稚園園長	千葉県木更津市	H26.4.1	R2.8.1	1項6号	法人職員のうち理事会選任
オダ キョウイチ 織田 恭一	男	清和大学学長	千葉県木更津市	H26.11.1		1項1号	清和大学学長
テツカ イチロウ 手塚 一郎	男	清和大学法学部長 清和大学教学部長	千葉県千葉市	R3.4.1		1項3号 1項4号	法学部長 教学部長
アンザイ ヨウキチ 安西 要吉	男	学校職員	千葉県木更津市	R1.12.1	R2.8.1	1項7号	理事のうち理事会選任
シンドウ イクコ 近藤 郁子	女	ピアノ教師	千葉県木更津市	H20.3.1	R2.8.1	1項7号	理事のうち理事会選任
アキタ ショウゾウ 秋元 昇三	男	無職	千葉県君津市	R2.8.1		1項8号	法人設置学校卒業生のうち 理事会選任
スズキ マサヒコ 鈴木 雅彦	男	自営業	千葉県袖ヶ浦市	R2.8.1		1項8号	法人設置学校卒業生のうち 理事会選任
クロカワ ユタカ 黒川 豊	男	旅館業代表取締役	千葉県富津市	R2.8.1		1項8号	法人設置学校卒業生のうち 理事会選任
イノウエ ユウジ 井上 裕二	男	学校職員	千葉県袖ヶ浦市	R2.8.1		1項9号	法人設置学校在学者父兄の うち理事会選任
オガワ シュンキ 小川 喜之	男	自営業	千葉県富津市	R4.6.1		1項9号	法人設置学校在学者父兄の うち理事会選任
ヤマウチ イツベイ 山内 一平	男	市議会議員	千葉県市原市	R6.6.1		1項9号	法人設置学校在学者父兄の うち理事会選任
トリウミ タカミツ 鳥海 高充	男	カギサグループ(株) 代表取締役	千葉県富津市	H16.12.25	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任
ツネズミ リョウヘイ 常澄 良平	男	NPO法人代表	千葉県市原市	H30.2.23	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任
ヤマダ チカシ 山田 千樫	男	無職	千葉県市原市	S62.9.5	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任
ヤマダ トシエ 山田 敏江	女	無職	千葉県市原市	H11.12.1	R2.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で 評議員会選任

4、学校法人組織機構図

令和6年7月1日現在



II 事業の概要

1、教育に関する事項

① 清和大学に関する事項

本年度は、7年に一度の大学機関別認証評価の受審年度にあたり、通常の教育活動に加えて、日本高等教育評価機構の評価団を受け入れての現地調査を含む各種対応が、重要な大学業務として位置づけられた。評価結果としては、無事「適合」の判定を受けただけでなく、評価報告書において8項目を「優れた点」として評価され、これまでの受審機会の中で最も高い評価を獲得することができた。

とりわけ以下の4項目では、本学の教育活動そのものが、それを充実させている仕組みや成果を含めて直截に評価されており、教職員一同にとっても大いに励みとなる内容であった。

○「警察官・消防官特進クラス」や「公務員対策講座」「行政書士」「司法書士講座」など法学部の特性を生かしたキャリア支援のための講座が充実しており、取分け「公務員対策講座」は多数のプログラムが生まれ、それぞれの志望職種に応じて履修ガイドが作られ、学生の科目選択の便宜を図るなど、きめ細かい受験指導が行われていることは高く評価できる。

○少人数教育を実施していることに照らして、専門的かつ一元的な相談窓口に絞らず、相談者の必要に応じて、窓口間の連携をとり、多面的な支援を行っており、どこでも相談できる支援体制を構築していることは評価できる。

○「授業改善のためのアンケート」について、教員が担当科目のアンケート結果を自らクロス集計によって分析できるよう設計するとともに、アンケート結果と各教員によるフィードバックを学生と全教職員間で共有することによって、教育内容・方法や学修環境の向上など教育の質の向上に寄与しており、高く評価できる。

○「ファカルティ・ディベロップメント委員会」には、専任教員だけでなく専任職員も委員として参加しており、教員の立場とは異なる視点からの意見を反映させることが可能な環境を維持し、大学全体としての教育の質的向上を目指す運用として取り組んでいることは評価できる。

また、更なる授業改善・教育力向上を志向した各種FD活動を継続実施した他、現行カリキュラムの運用改善を図ることを目的として履修ルールや開講科目の見直しを行うなど、学生の「学びやすさ」を向上させる諸施策を実施した。

教育成果としての卒業後の進路についても、本学最大のアピールポイントである公

務員試験合格状況が極めて堅調となった。公安系公務員は、警視庁警察官11名や千葉県警警察官10名をはじめとする警察官合格者がのべ32名、消防官2名、法務省矯正局刑務官7名、自衛官9名（うち1名は陸上自衛隊幹部候補生に合格）の実績となった。また、本年度の教育成果として特筆すべきは、各自治体の行政職公務員に6名が合格したことである。近隣の市原市・袖ヶ浦市・富津市の職員として各1名が合格した他、東京都・東京都江戸川区・熊本県川崎町の職員としても各1名が合格した。柔道部・剣道部を擁する法学部の単科大学として公安系公務員についての高い合格実績を維持できたことに加えて、一定数の行政職公務員の合格実績を上げられたことで、職種を限定することなく公務員試験合格を目指せる大学というアピールが可能となったことは重要である。ここ数年、コンスタントに免許取得者・正規採用者を輩出している教職課程と合わせて、今後も「大卒公務員を目指すなら清和大学」「教員を目指すなら清和大学」という本学の価値確立を目指したい。

上述のような正規学生への教育やその成果に加えて、高大連携や社会貢献の分野での教育活動にも引き続き取り組んでいる。昨年度と同様「きさらづ市民カレッジ」において「清和大学・清和大学短期大学部コース」を展開した他、専任教員が近隣自体からの要請に応じて公民館等における教養講座の講師を務めた案件もある。また、本年度は鴨川令徳高校において、SNS（ネット）利用で被害者・加害者になるケース双方を想定した法的解決策を扱う授業を本学専任教員が実施するなど、高等学校からの出前講座の要請に応じることで、本学の知名度向上にも努めている。

② 清和大学短期大学部に関する事項

本年度は4月2日に入学式を挙行し、授業は、4月4日から開講し、年間計画表に基づき規定回数を実践に履行した。授業形態については、前期、後期ともに対面を基本としたが、一部授業ではオンラインを併用することとなった。大学での履修方法や専門的な教科の学習に戸惑いを感じている新生や、オンライン授業について不安を抱いている学生に対する支援を目的に、専任教員が担当する科目については基本的に対面での実施に努め、できる限り学生達への影響が少なくなるように配慮した。

2年次生の教育実習や1、2年次の保育所及び施設での実習は概ね学事日程どおりに実施することができた。コロナ禍の影響で一部の園からは、実習時期の延期や教員による実習巡回の自粛を求められたが、昨年度からは、大きな制約を受けることなく、教員も全ての実習先を訪問することができている。今年度も実習に際して、事前指導及び事後指導の徹底を推進し、全教職員が一丸となって、学生一人一人に対してきめ細かい指導を行った結果、本年度卒業生54名のうち、幼稚園教諭二種免許状取得者41名、保育士登録資格者48名という成果を残すことができた。また、多くの卒業生たちがそれぞれの免許・資格を活かし、幼稚園、保育所及び施設等からの内定を得ることができている。

また、本学の特色の一つである、1年次生全員を対象とした「学外実習 館山集中授業」については、4月24日から2泊3日の日程で実施している。この学外実習は、1年次生の卒業必修科目である「レクリエーション実技Ⅰ」を集中授業形式で実施しているものであり、非常に高い学修効果が期待されている。1日目は、館山運動公園体育館での「運動会」、2日目は「オリエンテーリング」、最終日は「遊び体験」を実施した。この3日間をとおして、当該授業の研鑽に努めることができただけでなく、学生同士はもちろん、学生と教員が交流を図る貴重な機会となった。この集中授業の成果は、参加学生の振り返りシート等により確認することができた。

本学の一大イベントである清和祭（学園祭）は、11月23日及び24日に開催した。近隣の子どものたちの期待に応えるべく、学生達はゼミ単位で、造形表現を活かした装飾を施し、子ども達が楽しめる環境づくりを行った。「ダンボール迷路」、「缶バッジづくり」など、学生達は、幼児が楽しめる企画を考え、しっかりとした準備を行った上で実践していた。2日間で延べ1,000人以上の来場があり、校舎内外はまるでテーマパークの様相を呈し、子どもたちの楽しそうな笑顔や歓声に包まれた。

学生達の学習成果の集大成として、3月16日の卒業式の後に、「卒業記念発表会」を保護者、在校生、一般の方の参観のもとで催行した。ハンドベル演奏、マリンバアンサンブル、ピアノ独奏、独唱、声楽アンサンブル、合唱、造形作品展示等、研鑽を積んだ学生の成果に会場からは惜しめない拍手が送られた。

また、今年度から、清和大学短期大学部高大連携「科目等履修生」制度を設け、高校生を科目等履修生としての受け入れをスタートさせた。この制度によって、高校生達に一足先に大学の授業を体験してもらい、学ぶことに対する意識を高めることによって、高等学校での学びの重要性を再認識させたいと考えている。受講者は短大での授業について意欲的に取り組んでおり、高等学校と大学の円滑な接続を図ることが期待できる。また、修得した単位については、本学に入学した後に、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができるため、新入生の授業負担の軽減にもつながるものと考えられる。今年度は、木更津総合高等学校3年生を対象に、保育士資格選択必修科目である「子どもの遊びⅢ」（2単位）を開講したところ、38名の高校生が当該講座を受講することとなった。

本年度においても、地域社会に対する社会貢献の一環として、本学教員は地域の各種委員会の委員として委嘱を受け、教育委員会や子ども子育て会議等に出席するとともに、様々な講演会の講師も務めた。また、学生の地域貢献としては、例年ハンドベル部が積極的に活動しており、本年度も近隣の保育所、障がい者施設、児童養護施設、地域の催事等から招聘を受けた。また、学内でのクリスマスコンサートも昨年度に引き続き開催され、多くの方々に美しく澄んだハンドベルの魅力を伝えることができた。

これらの活動に加えて、本年度は一般財団法人「大学・短期大学基準協会」による7年に1度の認証評価を受審することとなった。これは、高等教育機関である短期大

学の水準について、短大評価基準を満たしているか否かの審査であり、「令和6年度自己点検評価報告書」による書面審査に加え、2日間に渉る訪問調査を受けた。全学体制で認証評価に向けての準備に取り組んだ結果、全ての項目において、短期大学評価基準を満たしていると認定され、令和7年3月14日付で「適格」と認められた。

また、令和7年3月22日及び23日の2日間に亘り、本学を会場に日本幼少児健康教育学会第43回大会【春季；木更津大会】が開催された。全国から講演者も含めて92名の参加があったが、本学の教職員が一丸となって運営をサポートし、盛況のうちに終了することができた。

③ 木更津総合高等学校に関する事項

本年度は、昨年度、一昨年度に続き、募集定員640名に対して、入学定員充足率100%を超える新生を迎えることができた。令和6年度に新たに入学した生徒数は、760名という木更津総合高等学校開校以来最多となっている。特に本校を第一志望で入学してくる生徒数も増えており、本校の教育活動が近隣の中学生達に評価されてきていると実感している。

学校行事等については、コロナ禍も終息し、コロナ以前とほぼ変わらぬ形式で実施することができている。学習面においては、5月と1月の2回にわたり「学習態度向上週間」を設定し、授業への取り組み、学習意欲・学習態度の向上を期し、学年単位で授業態度の向上に取り組んだ。また、各学年、ハウス単位で、教員同士が授業見学を実施し、それぞれの授業の充実を図っている。基礎学力の向上については、株式会社ベネッセが開発した「マナトレ」というテキストを活用しており、英語、数学、国語の3教科について、義務教育レベルの学習内容について改めて理解を深めることによって学力の底上げを図っている。さらに、朝のホームルーム後の時間を活用した、数学、漢字、英語のミニテストについても継続して実施し、基礎学力の定着を図った。これらに加えて、新たな試みとして、年間を通じて、朝読書の時間を設け、読書の習慣を身に着ける機会を設けることとした。

部活動においては柔道部、ソフトテニス部および陸上競技部がインターハイに出場し、全国の舞台で日頃の練習の成果を思う存分発揮することができた。また、硬式野球部については、第106回全国高等学校野球選手権千葉大会を制し、6年ぶり8度目の夏の甲子園出場を果たすことができた。甲子園の舞台では、残念ながら初戦で涙を呑む結果となったが、野球部だけでなく、吹奏楽部、チアリーディング部、ダンス部を始め多くの生徒達が甲子園球場での応援に参加することができ、校内も大変な盛り上がりを見せた。文化部においても吹奏楽部、和太鼓部、書道部などがそれぞれコンクールや展覧会、発表会などで多くの賞を受賞する傍ら、地域に根差した活動を展開し、多くの依頼演奏や発表を行った。また、インターアクト部及び語学コースの生徒が中心となり、ベトナムのダナン市の越日学校の学生との交流会を実施し、海外交流についても積極的に推進

することができた。

その他のトピックスとしては、前年度より導入された新制服も2年目を迎え、生徒たちの中にスタンダードな制服として認知されており、地域においても本校の制服のイメージが浸透してきたと感じている。施設面に関しては、昨年度の至真殿に続き、至誠館にも冷暖房が完備され、快適な環境で体育の授業や部活動などを展開することができた。次年度以降青雲館への冷暖房設備の設置を計画しており、教育環境の益々の充実を目指す予定である。

④ 市原中央高等学校に関する事項

令和6年度は、コロナ流行以前と同様の生徒の教育活動や学校行事を実施できるよう取り組んできた。入学式や卒業式などは保護者の参列を制限することなく挙行できた。また文化祭や体育祭等の校内の行事にも多くの保護者が来校し教育活動を参観していただき、本校の教育活動を発信し家庭と学校の連携を図る場を設けることができたと考える。遠足や修学旅行等の校外行事では生徒の自主性を尊重した活動が主となり生徒の豊かな心の醸成だけでなく自立心の育成や協働する喜びを味わわせることができたと考える。

一方で、学校を取り巻く環境は年々変化し、少子高齢化、急激なグローバル化・情報化社会、価値観の多様化への対応が求められてきている。近年では温暖化の影響で熱中症対策が求められ教育活動が制限されることも出てきた。しかし今年度は、体育館に空調設備が設置され、授業だけでなく全校集会、部活動、各種活動での熱中症予防に大変効果的であった。

授業の面では、基礎基本の定着・学力向上、多様化する大学入試制度への対応として、習熟度に応じた授業構成、きめ細かな選択科目の設定など教育課程を柔軟かつ創意工夫して運用してきた。またデジタル社会への対応のため学習端末（一人1台タブレット）の活用はもちろんのことDXハイスクールの認定を受け情報教育の充実を図った。さらには、グローバル化への対応のため英語検定の推奨、GTECの実施、国内の英語研修や海外での研修、姉妹校への短期留学など英語教育の充実に努めた。次年度以降も評価・改善し引き続き保護者のニーズや時代の要請に応えていきたい。また、生徒の確保に向け、魅力ある授業、家庭や地域から信頼される学校づくりに重点的に取り組んでいきたいと考えている。

本年度の進学実績は、一橋大学、筑波大学、千葉大学をはじめとする国公立大学に24名（防衛大学校を含めると26名）、私立大学についても、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学といった難関大学をはじめとして、延べ440名の合格者を輩出することができた。

また進路指導の一環として、東京を中心とする20大学の教職員を迎えての模擬授業や3年生対象の大学説明会を校内で開催しており、生徒の進路意識や大学選択への

意識向上に役立っている。

学習到達目標である「CAN-DO リスト」を設定し、卒業時により多くの生徒が英検 2 級以上の英語資格の取得ができるように学習支援を行っている。ICT 活用も積極的に進めており、英語 4 技能対策アプリ ELST や AI による英文エッセイの採点・添削サービス「スマートレクチャー」を導入することで、自律的な英語学習の促進を目指している。また、すべての学年・クラスにおいて、外国人講師と日本人教員のティームティーチングを実施することで、生徒一人一人の英語学習意欲が高まっている。さらに、オーストラリアの姉妹校 Faith Lutheran College, Redlands での海外交流研修や福島県ブリティッシュヒルズでの国内英語研修などを通じて、どの生徒も英語によるコミュニケーションが取れる喜びを感じられるよう、異文化理解を深める機会を提供している。グローバルリーダーコース(GLC)では、第一線で活躍する専門家から対面とオンラインで学ぶキャリア研修をはじめ、社員とマンツーマンでメンタリングを行う外資系企業訪問、さらには世界が抱える問題について SDGs をテーマにグループディスカッションを行うフィリピンオンライン留学を導入し、大きな成果をあげている。2 年次には、ベトナムダナンにある FPT 大学を研修拠点として、ベトナム戦争で使われた枯葉剤の後遺症で苦しむ人々の施設を訪問したほか、日系企業を訪問してのキャリア研修などを行なっている。今後も、しなやかな感性と幅広い教養を身につけ、国際社会でリードする人材として成長できる環境を提供していく計画である。

部活動については、運動部、文化部ともに活発な活動が見られた。そうした中、特に硬式野球部は第 106 回全国高等学校野球選手権千葉大会において、5 年ぶり 2 度目のベスト 4 に進出した。また、放送委員会は第 71 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト千葉県大会（テレビドキュメント部門）において優秀賞に輝き、全国大会に出場した。生徒達は、学業と部活動の両立に努め、充実した活動を展開しながら有意義な学校生活を送っている。

⑤ 清和大学附属幼稚園に関する事項

本年度においても、本学の教育目標である、「真心教育」を中核として、園児の生きる力の基礎となる豊かな心情や意欲、関心、態度を育てることを目指して日々の活動を実践してきた。日常指導における重点項目として主に以下の 6 つの項目があげられる。

- (1) 特殊な教育・領域に偏ることなく、常に幼児の心身の基礎が調和的に形成されるよう指導と援助を行うこと
- (2) 園児の生活経験に即した、わかりやすい指導を行うこと
- (3) できるだけ自分の力でできるように方向づけて、園児一人一人の創意が生かされるように取り組むこと
- (4) 人間として、豊かな情操、力強く生きる力を身につけられるような活動を行うこと

- (5) すべての領域において小学校教育との関連を保ち、小学校につながるような指導を行うこと
- (6) 併設大学・高校と一体化を図り、大学の附属幼稚園ならではの体験を展開すること

特に、日常保育の中では、自然の変化や季節の行事にあった指導計画を作成し、幼稚園教育要領に示された五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）について、いずれも偏ることなく、調和のとれた指導を行うことを目指し、週案作成の段階から意識して取り組むことを実践した。また、園児の生活経験に則した分かりやすい指導を心がけた。一人一人の個性を見極め、個性にあったスモールステップでの指導援助を実践した。挨拶、手洗い、排泄、片づけ、食事といった基本的な生活習慣についても、可能な限り自分の力でできるように方向づけて、できる喜びを感じさせるような指導に努めた。

また、人の話をしっかりと聞くこと、人前で話をしたり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように、小グループでの話し合いの機会を積極的に取り入れている。この取り組みの効果もあり、卒園までには多くの園児が「話し合う」ということを理解し実践できるようになってきたと感じている。

本年度も併設校との連携を強化し、高等学校や短期大学の教員による体育教室、英語教室、造形教室、ICT教室を展開することができた。体育指導については、園児の発達段階に則したプログラムを構築しており、教材教具を工夫し、逆さ感覚を養う種目を取り入れて体を動かす楽しさを教えながら協調性、社会性を育てることを目標としている。また、外国人講師による英語指導は、ただ単に英語を学ぶのではなく、英語で遊ぶことや異なる文化を体験したり、国際感覚を身につけたりすることを趣旨としている。造形教室では、新聞紙・折り紙・リボン・カラーテープ・花紙・絵の具等多数の材料を用意し、子どもの自由な発想を大切に創造力を引き出すことを目的に普通の保育ではできない作品づくりを行った。小学校でのプログラミング教育が必修化されたことを受け、2021年度から「ICT教室」と題してiPadを用いた情報教育に触れる機会を設けており、最終的にはプログラミングの導入領域まで踏み込んだ内容を視野に入れている。これらに加え、併設学校と連携し高等学校の吹奏楽部による特別演奏会や野球部による野球教室なども開催し、園児と生徒達が交流する機会になり、幅広い体験保育を展開することができた。

保健サポート面でも、短期大学部から臨床心理士の資格を有する先生や看護師の先生が定期的に来園できる体制を構築しており、子ども達の心と体の発育をサポートするとともに、保護者の方々の育児相談や教員に対する適切な助言等を実施することで教育の質の向上につなげることができた。

本年度も教職員の能力向上のため、3園合同の研修会を開催した。企業のリーダーシップ研修等の経験が豊富な外部講師をお招きし、教務主任等を対象に「リーダーシップ

研修」を行った。若手教員達のモチベーションを高めるためには、日頃から積極的に声をかけ、仕事のゴールを明確に示すことが必要であることや、信頼されるリーダーとしての心構え等について幅広く学ぶ事ができた。また、全体研修として、「組織力強化のためのチームワークについて」をテーマに外部講師による研修も実施した。研修を通して組織の目標達成のために自分自身を見つめ直し、今後の進むべき方向性を確認する機会になったと感じている。特にワークショップでは、仕事上の課題や悩みを話し合い、別の視点から解決策を見出すことができた。教職員にとっても、他園の先生達との交流を通じて、他園の様子を知る機会になったり、新たな人間関係の構築にもつながることができ、大変有意義で楽しい研修となった。

また、今年度から新たに、「先輩に学ぶ」と題して園内研修会を実施した。中堅教員が若手教員に実際の保育活動を見学させ、研究協議会を行った。特に、教材提示の仕方、発問の仕方、時間配分、まとめ方等については、参観者から好評を得ている。中堅教員からも、他者に見てもらおう事で自身の指導法改善に役立ち、スキルアップに繋がったと前向きな発言も見られた。他の教員からも研修に参加したいとの要望があったことを受け、次年度以降についても継続して展開することを予定している。更に、園児の長期休業期間等を有効に活用し、園外研修にも積極的に参加した。木更津市内保育施設職員研修会の「就学相談」では、特別支援学級の活動の流れを知り、幼稚園、保護者、小学校の連携によって、切れ目のない教育支援を行っていることを学んだ。また、「発達障害のキモチ」及び「寄り添う大人のためのこころがまえ」の講座は、各教室に在籍する配慮の必要な園児の指導に悩んでいる先生方にとって保護者との連携、支援の方法を学ぶ有意義な研修となった。今後も研修を通して自己研鑽に努めることが肝要であると実感している。

2、研究に関する事項

① 清和大学に関する事項

令和6年度は、本学の在外研修制度の基に、以下の研究が行なわれた。

○在外研修 派遣地：フランス共和国（ブサンソン）

研究者：豊岡 めぐみ（准教授）

派遣目的：「フランスにおける終末期医療について研究するため」

また、法学会運営委員会による専任教員の研究報告会も年度を通じて定期的に開催された他、本学専任教員が研究成果の発表やそれに基づく知見提供を求められる機会があった際には、公式 Web サイトや公式 SNS を通じて積極的な対外的情報発信をおこなった。

更に、本年度も複数の専任教員が外部の競争的資金を獲得し、活発な研究活動を行うとともに、間接経費等により本学の研究環境の充実に貢献した。その概況は以下のとおりである。

○科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（独立行政法人日本学術振興会所管）

<代表者>

(1) 研究者：田中将之（基盤研究（C）（一般）／4年計画2年目）

研究課題：教員養成課程における「ユーモア」スキルの習得及びその効果に関する研究

(2) 研究者：酒本夏輝（基盤研究（C）／3年計画1年目）

研究課題：ネガティブ教示はなぜ運動エラーを誘導するか：事象関連電位による認知メカニズム解明

<分担者>

(3) 研究者：今井康介（基盤研究（B）（一般）／3年計画2年目）

研究課題：著作権法罰則の運用実態調査に基づく解釈・立法の構築

(4) 研究者：酒本夏輝（基盤研究（C）（一般）／3年計画1年目）

研究課題：長期運動適応が注意資源配分機能と体力に及ぼす影響

(5) 研究者：谷津貴久（基盤研究（C）（一般）／3年計画2年目）

研究課題：動的サインによる常時掲示型反復式防災教育コンテンツの開発

(6) 研究者：小松伸之（基盤研究（C）（一般）／3年計画2年目）

研究課題：社会科・公民科における市民リテラシーを育む小中高一貫主催者教育カリキュラムの開発

② 清和大学短期大学部に関する事項

令和6年度の研究活動としては、本学研究委員会で編集した紀要第53号を令和7年1月31日に発行している。その内容は下記のとおりである。

<論文>

- ・幼少接続に関する歴史的研究～羽仁説子の言説を中心として～

佐々木 竜太 准教授

- ・ヴィクトリア朝の子育て・保育に関する一考察

～英国の家庭運営指南書『ビートン夫人の家庭読本』は何をどのように伝えたか～

中西 綾子 専任講師

- ・ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技法としての「物づくり」

～ラポール形成の方法論への応用に向けて～

宗政 朱利 専任講師

- ・指定保育士養成施設における施設実習の指導方法に関する一考察

～学生アンケートを通して～

宗政 朱利 専任講師、劉 光鍾 専任講師

<研究ノート>

- ・高齢者の社会的孤立と余暇活動についての一考察

～老人福祉館の事業内容～

劉 光鍾 専任講師

- ・運動あそびにおける仕掛学的な指導法の可能性について

～運動指導者の意識調査から～

新 友宏 特任講師

<短報>

- ・保育士・幼稚園教諭養成機関におけるピアノ弾き歌い指導に関する研究動向

稲生 涼子 非常勤講師

また、各教員の所属学会等における研究活動については、下記のとおりである。

- ・「清和大学短期大学部レクリエーションインストラクター養成課程」

千葉県レクリエーション協会 研究フォーラム

令和6年10月 竹内 直人 教授

- ・「令和6年度 保育者の意欲と働きやすさに関する研究～保育者が誇りをもって働ける職場づくりのために～」 調査報告書 共著 千葉県保育協議会調査研究委員会

令和7年3月 後藤 紗織 准教授

- ・教育実習におけるリメディアル教育の取り組みについて
 関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会第4部会研究会
 令和7年3月 佐々木 竜太 准教授
- ・「乳幼児を対象とした絵本の読み聞かせボランティアを支援するための研修内容の研究」
 日本保育学会第77回大会 自主シンポジウム
 令和6年5月 中島 緑 准教授
- ・「令和6年度 保育者の意欲と働きやすさに関する研究～保育者が誇りをもって働ける職場づくりのために～」調査報告書 共著 千葉県保育協議会調査研究委員会
 令和7年3月 中島 緑 准教授
- ・「うたのミックスジュース こどものうた 242」 共著 圭文社
 令和6年8月 鈴木 希実 専任講師
- ・「子ども家庭支援論 第2版」 共著 北樹出版
 令和6年5月 宗政 朱利 専任講師
- ・「子どもの『居場所』と社会的養護に関する一考察」 福祉開発研究7
 令和7年3月 宗政 朱利 専任講師

3、キャンパス等充実に関する事項

令和6年度におけるキャンパス等の充実に関する事項としては、清和大学におけるトイレ改修工事、木更津総合高等学校における教室のLED化及び体育館（至誠館）の空調機器の設置工事、市原中央高等学校における第一体育館への空調機器設置工事などがあげられる。

大学校舎のトイレ改修工事については、かねてより学生アンケート等の集計結果からも必要性が指摘されていたものであり、今後5年間にわたって順次改修工事を実施することとなっている。改修後のトイレについては学生達からの評判も良く、キャンパスアメニティ充実の観点からも非常に有効であったと思われる。また、木更津総合高等学校においては、校舎の全面的なLED化の工事が実施された。こちらも数年前から計画を進めていた事業であるが、令和6年度に千葉県補助金を活用して整備を進めることができた。また、木更津総合高等学校及び市原中央高等学校における体育館の空調設備の整備についても補助金の対象となったため、熱中症対策として導入することが決定された。令和6年7月に機器の設置が完了し、体育の授業や部活動の際に使用した生徒達からは喜びの声を聞くことができた。また、学校行事や学校見学会等において来場された保護者や中学生たちからも好評を得ている。また、木更津総合高等学校においては、摩耗した人工芝グラウンドについて、全面的な改修工事を実施している。

主な機器備品等の設備状況については、木更津総合高等学校におけるサーバー機器の更新、同校のコンピュータ教室の更改などがあげられる。また、市原中央高等学校においては、DXハイスクールの採択校として認定されたため、文部科学省の補助金を有効に活用して、DX化の推進に伴う機器備品の整備等を実施した。

その他の事業として、スクールバスの老朽化の対策の一環で、木更津総合高等学校及び市原中央高等学校において大型バス（観光タイプ）の購入を行った。その他にも、各設置校において、施設設備の維持管理上必要となる修理修繕を適正に実施した。

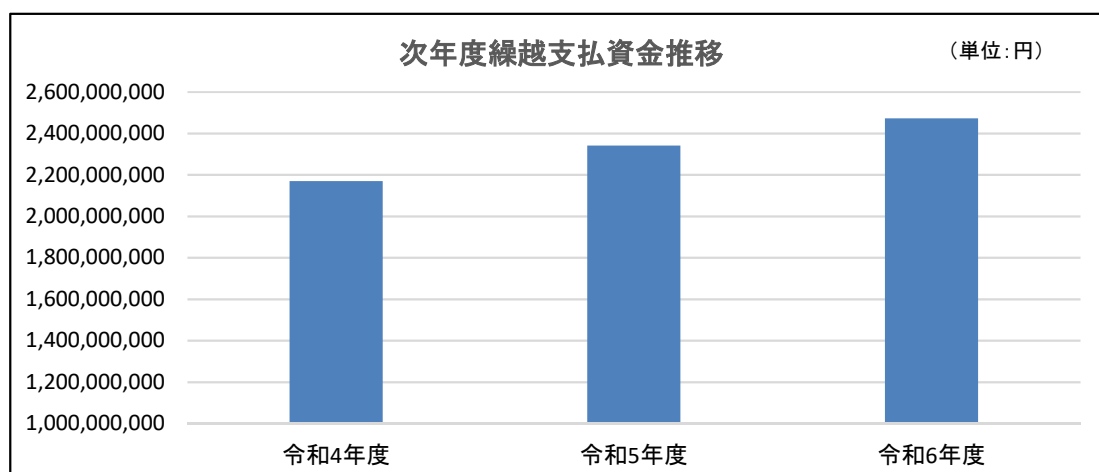
Ⅲ 財務の概要

1、財務の経年比較

①資金収支経年比較表

(単位 円)

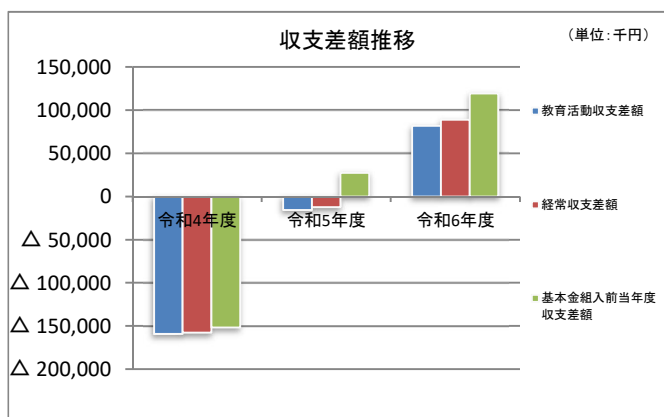
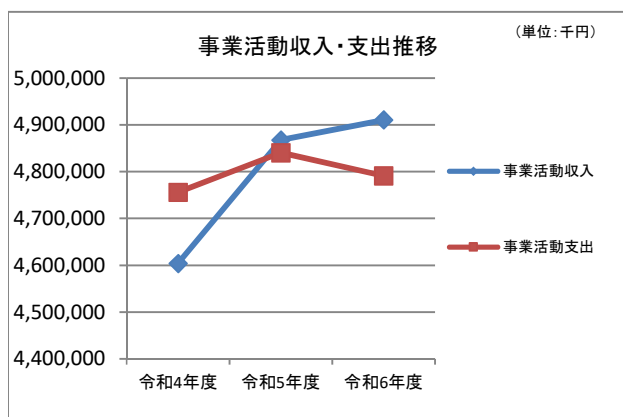
<収入の部>			
科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒納付金収入	2,492,881,850	2,342,492,500	2,348,343,834
手数料収入	71,817,058	73,178,388	70,013,058
寄付金収入	5,942,436	20,751,350	4,121,485
補助金収入	1,521,972,082	1,879,390,419	2,070,542,886
資産売却収入	970,526	1,393,369	723,748
付随事業・収益事業収入	272,268,035	267,291,593	242,528,969
受取利息・配当金収入	1,460,541	2,892,439	6,875,405
雑収入	231,260,854	278,199,210	167,643,072
前受金収入	394,163,850	413,309,620	369,431,260
その他の収入	400,871,081	375,834,678	516,383,401
資金収入調整勘定	△ 672,228,510	△ 751,438,966	△ 662,452,806
前年度繰越支払資金	2,111,889,985	2,169,950,523	2,341,566,512
収入の部合計	6,833,269,788	7,073,245,123	7,475,720,824
<支出の部>			
科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	2,753,000,665	2,881,382,972	2,828,922,658
教育研究経費支出	1,137,711,357	1,107,774,081	1,122,952,363
管理経費支出	360,082,132	357,846,215	362,276,696
施設関係支出	89,573,028	125,646,900	161,614,000
設備関係支出	74,929,534	70,217,831	129,631,888
資産運用支出	0	100,000,000	100,498,654
その他の支出	631,053,964	510,452,024	624,255,493
資金支出調整勘定	△ 383,031,415	△ 421,641,412	△ 327,842,418
次年度繰越支払資金	2,169,950,523	2,341,566,512	2,473,411,490
支出の部合計	6,833,269,788	7,073,245,123	7,475,720,824



②事業活動収支経年比較表

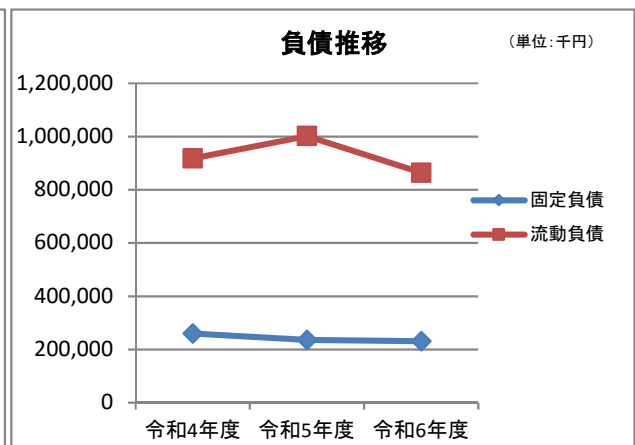
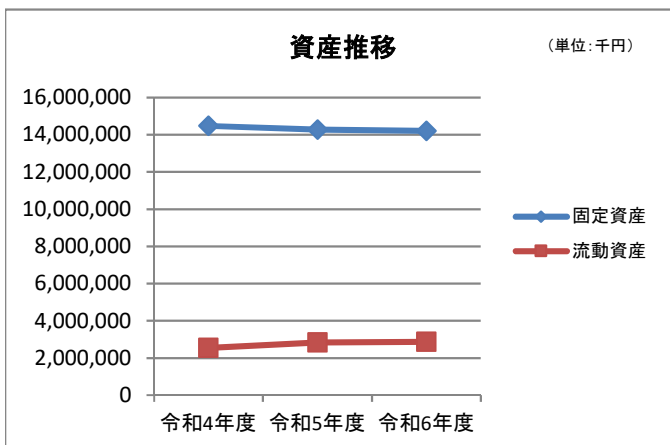
(単位 円)

		科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,492,881,850	2,342,492,500	2,348,343,834
		手数料	71,817,058	73,178,388	70,013,058
		寄付金	5,942,436	20,751,350	4,121,485
		経常費等補助金	1,520,721,082	1,838,496,419	2,038,019,886
		付随事業収入	272,273,101	267,296,403	242,533,688
		雑収入	232,676,983	280,170,712	167,602,337
		教育活動収入計	4,596,312,510	4,822,385,772	4,870,634,288
	支出の部	人件費	2,753,000,665	2,881,382,972	2,829,622,312
		教育研究経費	1,551,860,987	1,513,187,697	1,511,436,306
		管理経費	450,394,532	443,288,082	447,825,091
徴収不能額等		510,000	0	0	
教育活動支出		4,755,766,184	4,837,858,751	4,788,883,709	
教育活動収支差額		△ 159,453,674	△ 15,472,979	81,750,579	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	1,460,541	2,892,439	6,875,405
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入	1,460,541	2,892,439	6,875,405
	支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外収支差額	1,460,541	2,892,439	6,875,405
経常収支差額		△ 157,993,133	△ 12,580,540	88,625,984	
特別収支	収入の部	資産売却差額	238,270	677,606	235,704
		その他の特別収入	6,016,083	41,784,348	32,563,735
		特別収入計	6,254,353	42,461,954	32,799,439
	支出の部	資産処分差額	0	38,262	1,761,408
		その他の特別支出	210,000	2,575,980	317,020
		特別支出計	210,000	2,614,242	2,078,428
特別収支差額		6,044,353	39,847,712	30,721,011	
基本金組入前当年度収支差額		△ 151,948,780	27,267,172	119,346,995	
基本金組入額合計		△ 27,858,050	△ 126,334,416	△ 252,093,822	
当年度収支差額		△ 179,806,830	△ 99,067,244	△ 132,746,827	
前年度繰越収支差額		△ 8,218,018,436	△ 8,395,791,762	△ 8,493,045,796	
基本金取崩額		2,033,504	1,813,210	5,444,134	
翌年度繰越収支差額		△ 8,395,791,762	△ 8,493,045,796	△ 8,620,348,489	
(参考)					
事業活動収入計		4,604,027,404	4,867,740,165	4,910,309,132	
事業活動支出計		4,755,976,184	4,840,472,993	4,790,962,137	



③貸借対照表経年比較表

資産の部			
科目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	14,478,298,373	14,275,330,336	14,212,687,455
有形固定資産	13,871,822,524	13,575,948,327	13,385,792,458
土地	3,530,305,748	3,530,305,748	3,530,305,748
建物	8,236,369,922	8,051,797,767	7,865,270,631
構築物	1,018,051,354	962,629,313	948,737,936
その他の有形固定資産	1,087,095,500	1,031,215,499	1,041,478,143
特定資産	587,481,809	684,619,959	785,088,613
その他の固定資産	18,994,040	14,762,050	41,806,384
流動資産	2,548,739,773	2,837,261,160	2,876,928,954
現金預金	2,169,950,523	2,341,566,512	2,473,411,490
その他の流動資産	378,789,250	495,694,648	403,517,464
資産の部合計	17,027,038,146	17,112,591,496	17,089,616,409
負債の部			
科目名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定負債	260,180,041	235,257,129	230,550,909
流動負債	918,477,671	1,001,686,761	864,070,899
負債の部合計	1,178,657,712	1,236,943,890	1,094,621,808
純資産の部			
科目名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基本金	24,244,172,196	24,368,693,402	24,615,343,090
第1号基本金	23,948,172,196	24,072,693,402	24,319,343,090
第4号基本金	296,000,000	296,000,000	296,000,000
繰越収支差額	△ 8,395,791,762	△ 8,493,045,796	△ 8,620,348,489
翌年度繰越収支差額	△ 8,395,791,762	△ 8,493,045,796	△ 8,620,348,489
純資産の部合計	15,848,380,434	15,875,647,606	15,994,994,601
負債及び純資産の部	17,027,038,146	17,112,591,496	17,089,616,409



2、借入金の状況

借 入 金 明 細 票

自 令和6年 4月 1日
至 令和7年 3月31日

(単位 円)

借入先		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	備考	
長期借入金	公的金融機関								
	小 計	0	0	0	0				
	市中金融機関								
	小 計	0	0	0	0				
	その他								
	小 計	0	0	0	0				
	計	0	0	0	0				
	短期借入金	公的金融機関							
		小 計	0	0	0	0			
		市中金融機関							
小 計		0	0	0	0				
その他									
小 計		0	0	0	0				
返済期限が1年以内の長期借入金		0	0	0	0				
計		0	0	0	0				
合 計		0	0	0	0				